

臨床研究法における利益相反管理に関する

標準業務手順書

新潟県立がんセンター新潟病院

ver.3.0

作成日：2018年4月1日

目 次

内容

1. 目的.....	3
2. 適用範囲及び方法.....	3
3. 用語の定義.....	3
3.1. 全般.....	3
3.2. その他.....	3
4. 管理体制及び責務.....	3
4.1. 研究責任医師の責務.....	3
4.1.1. 利益相反管理基準の作成.....	3
4.1.2. 関係企業等報告書の作成.....	3
4.1.3. 研究者利益相反自己申告書の作成と提出.....	4
4.1.4. 研究分担医師等への依頼事項.....	4
4.1.5. 実施医療機関等からの結果の受領.....	4
4.1.6. 利益相反管理計画の作成.....	5
4.1.7. 認定臨床研究審査委員会への提出.....	5
4.1.8. 文書保存義務.....	5
4.1.9. その他臨床研究の実施に必要な事項.....	5
4.2. 研究分担医師等の責務.....	5
4.2.1. 研究者利益相反自己申告書の作成と提出.....	5
4.2.2. 当院等からの結果の受領.....	6
4.2.3. 文書保存義務.....	6
4.3. 研究代表医師の責務.....	6
4.3.1. 利益相反管理基準の作成.....	6
4.3.2. 関係企業等報告書の作成.....	6
4.3.3. 利益相反管理計画の取りまとめ.....	6
4.3.4. 文書保存義務.....	6
4.4.1 事実確認.....	7
4.4.2 利益相反状況確認報告書の作成.....	7
4.4.3 文書保存義務.....	7
5. 守秘義務.....	7

1. 目的

本手順書は、新潟県立がんセンター新潟病院（以下「当院」という）での臨床研究法（平成 29 年法律第 16 号。以下「法」という）第 3 条 1 項及び臨床研究法施行規則（平成 30 年厚生労働省令第 17 号。以下「規則」という。）第 21 条に規定する利益相反管理に関する諸事項とその手順を示すものである。

2. 適用範囲及び方法

本手順書は、法第 2 条第 1 項に規定する臨床研究における利益相反管理に適用する。

なお、本手順書の記載内容は標準的な業務内容及び手順である。臨床研究の開始にあたっては、本手順書の記載内容を基に研究責任医師は内容及び手順について確認の上、「臨床研究法における利益相反管理ガイダンス」において提示した様式を利用して作成する。

3. 用語の定義

3.1. 全般

本手順書において使用する用語は、法及び規則において使用する用語の例によるものとする。

3.2. その他

規則に記載のない提議については、以下の通りとする。

① 研究分担医師等

研究責任医師が実施する臨床研究に従事する研究分担医師及び統計的な解析を行うことに責任を有する者並びに研究計画書に記載されている者であって、当該臨床研究を実施することによって利益を得ることが明白な者

② 関係企業等

研究責任医師が実施する臨床研究と関わりのある医薬品等製造販売業者又はその特殊関係者

4. 管理体制及び責務

4.1. 研究責任医師の責務

4.1.1. 利益相反管理基準の作成

研究責任医師は、臨床研究に係る利益相反上の取扱いを定めた「利益相反管理基準」（様式 A 参照）を作成する。

なお、多施設共同研究の場合は、4.3.1 に記載のとおり、研究代表医師が「利益相反管理基準」（様式 A 参照）を作成する。

4.1.2. 関係企業等報告書の作成

研究責任医師は、当該臨床研究と関わりのある関係企業等の有無を確認するために「関係企業等報告書」（様式 B 参照）を作成する。

なお、多施設共同研究の場合は、4.3.2 に記載のとおり、研究代表医師が「関係企業等報告書」（様式 B 参照）を作成するため、各研究責任医師は自らの研究範囲に関わる関係企業等の有無を研究代表医師に通知する。

4.1.2.1. 関係企業等がない場合

研究責任医師は、「関係企業等報告書」(様式 B 参照) Q1 に該当する関係企業等がない場合は、4.1.6 に記載の「利益相反管理計画」(様式 E 参照) を作成する。

4.1.2.2. 関係企業等がある場合

研究責任医師は、「関係企業等報告書」(様式 B 参照) Q1 に該当する関係企業等がある場合は、「研究者利益相反自己申告書」(様式 C 参照) にて、当該関係企業等の利益相反の状況を把握し、当該利益相反に対する管理計画を作成する。

研究責任医師は、「関係企業等報告書」(様式 B 参照) Q2~Q5 に該当する関係企業等がある場合は、「関係企業等報告書」(様式 B 参照) にて、当該関係企業等の利益相反の状況を把握し、当該利益相反に対する管理計画を作成する。

なお、「関係企業等報告書」(様式 B 参照) の内容は、自動的に「研究者利益相反自己申告書」(様式 C 参照) に転記されるため、研究責任医師は、4.1.4 による研究分担医師等への「研究者利益相反自己申告書」(様式 C 参照) の作成依頼に当たって、「関係企業等報告書」(様式 B 参照) を送付する必要はない。

4.1.3. 研究者利益相反自己申告書の作成と提出

研究責任医師は、4.1.2.2 に記載のとおり「研究者利益相反自己申告書」(様式 C 参照) を作成する場合は、「関係企業等報告書」(様式 B 参照) の Q1 に該当する関係企業等との利益相反の状況を把握し、当該利益相反に対する管理計画を記載する。研究責任医師は、自ら作成した「研究者利益相反自己申告書」(様式 C 参照) を「利益相反管理基準」(様式 A 参照) とともに実施医療機関又は所属機関(以下「実施医療機関等」という。)に提出する。また、実施医療機関等の求めに応じて、研究計画書を提出する。

当院用書式「(法書式 1) 特定臨床研究審査申請書(新規)」内にある「利益関係の有無」および「(法書式 2) 利益相反自己申告書(特定臨床研究用)」を作成し、原本を倫理審査委員会事務局へ提出する。

4.1.4. 研究分担医師等への依頼事項

研究責任医師は、「関係企業等報告書」(様式 B 参照) のうち、Q1 に該当する関係企業等がある場合は、各研究分担医師等に対して「利益相反管理基準」(様式 A 参照) 及び「関係企業報告書」(様式 B 参照) の Q1 に該当する関係企業等に関する「研究者利益相反自己申告書」(様式 C 参照) を作成し、実施医療機関等に提出することを依頼する。

4.1.5. 実施医療機関等からの結果の受領

多施設共同研究の代表責任医師となる研究責任医師は、実施医療機関等による事実確認の結果として、研究責任医師及び 4.1.4 にて依頼した研究分担医師等に関する「利益相反状況確認報告書」(様式 D 参照) を受領する。

研究責任医師(代表責任医師)は、当該確認報告書の受領の過程で助言・勧告等を受けた場合は、利益相反の適切な管理のために必要な措置を検討しなければならない。

4.1.6. 利益相反管理計画の作成

研究責任医師は、「利益相反管理基準」（様式 A 参照）、「関係企業等報告書」（様式 B 参照）及び「利益相反状況確認報告書」（様式 D 参照）を踏まえて、認定臨床研究審査委員会に提出する「利益相反管理計画」（様式 E 参照）を作成する。その際、利益相反状況確認報告書（様式 D 参照）において、実施医療機関等から特段の注意喚起が付された場合にあつては、その意見の内容を利益相反管理計画に必ず特記すること。

4.1.7. 認定臨床研究審査委員会への提出

研究責任医師は、「利益相反管理基準」（様式 A 参照）及び「利益相反管理計画」（様式 E 参照）を認定臨床研究審査委員会に提出する。

なお、多施設共同研究の場合は、研究責任医師は、4.3.3に記載のとおり、「利益相反管理計画」（様式 E 参照）を研究代表医師に提出する。

研究責任医師は、認定臨床研究審査委員会から意見を述べられた場合には、当該意見を尊重して、利益相反管理基準又は利益相反管理計画の内容を一部変更する等の必要な措置をとらなければならない。

4.1.8. 文書保存義務

研究責任医師は、「利益相反管理基準」（様式 A 参照）、「関係企業等報告書」（様式 B 参照）及び「利益相反管理計画」（様式 E 参照）について、臨床研究が終了した日から5年間保存する義務を負う（規則第53条第2項）。

なお、文書は電子データで作成されるため、電子データでの保管を原則とする。

4.1.9. その他臨床研究の実施に必要な事項

研究責任医師は、利益相反管理基準及び利益相反管理計画に基づき、当該臨床研究の利益相反を適切に管理しなければならない。

研究責任医師は、研究計画書及び臨床研究の対象者等に対して説明すべき事項に、利益相反の状況を記載しなければならない。

4.2. 研究分担医師等の責務

4.2.1. 研究者利益相反自己申告書の作成と提出

臨床研究を実施する研究分担医師等は、「関係企業等報告書」（様式 B 参照）Q1 に該当する関係企業等がある場合は、研究責任医師が作成した「利益相反管理基準」（様式 A 参

照）を理解した上で、「研究者利益相反自己申告書」（様式 C 参照）に従い、当該関係企業等との利益相反の状況を確認するとともに、研究責任医師による「利益相反管理計画」

（様式 E 参照）の作成に当たっての参考となるよう、当該利益相反に対する管理計画を作成し、実施医療機関等に提出する。（多施設共同研究の場合）

当院用書式「（法書式 1）特定臨床研究審査申請書（新規）」内にある「利益関係の有無」

および「（法書式 2）利益相反自己申告書（特定臨床研究用）」を作成し、原本を倫理審査委員

会事務局へ提出する。

4.2.2. 当院等からの結果の受領

研究分担医師等は、当院等による事実確認の結果として、「利益相反状況確認報告書」（様式D 参照）の写しを受領する。

研究分担医師等は、当該確認報告書の写しの受領の過程で当院等から助言・勧告等を受けた場合は、利益相反の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

4.2.3. 文書保存義務

研究分担医師等は、研究責任医師の指導の下、「研究者利益相反自己申告書」（様式C 参照）について、臨床研究が終了した日から5年間保存する義務を負う（規則第53条第2項）。

なお、文書は電子データで作成されるため、電子データでの保管を原則とする。

4.3. 研究代表医師の責務

多施設共同研究の場合は、研究代表医師が、「利益相反管理基準」（様式A 参照）及び全共同研究機関の「利益相反管理計画」（様式E 参照）を取りまとめて認定臨床研究審査委員会に提出する。

研究代表医師は、共同研究機関の研究責任医師も兼ねているため、以下は研究代表医師としての責務のみを記し、自らが所属する共同研究機関の研究責任医師としての責務は4.1に記す。

4.3.1. 利益相反管理基準の作成

研究代表医師は、臨床研究に係る取扱いを定めた「利益相反管理基準」（様式A 参照）を作成し、各共同研究機関の研究責任医師に通知する。

4.3.2. 関係企業等報告書の作成

研究代表医師は、臨床研究と関わりのある関係企業等の有無を確認するために「関係企業等報告書」（様式B 参照）を作成する。作成に際しては、各共同研究機関の研究責任医師に対して、関係企業報告書に記載した関係企業等に齟齬がないことを確認する。

4.3.3. 利益相反管理計画の取りまとめ

研究代表医師は、各共同研究機関の研究責任医師が作成した「利益相反管理計画」（様式E 参照）を取りまとめ、認定臨床研究審査委員会に提出する。

4.3.4. 文書保存義務

研究代表医師は、「利益相反管理基準」（様式A 参照）、「関係企業等報告書」（様式B 参照）及び「利益相反管理計画」（様式E 参照）について、臨床研究が終了した日から5年間保管する義務を負う（規則第53条第2項）。

なお、文書は電子データで作成されるため、電子データでの保管を原則とする。

4.4. 病院長の責務

4.4.1 事実確認

病院長は、研究責任医師及び研究分担医師等から提出された「研究者利益相反自己申告書」(様式C 参照)について、所属機関として把握している情報と照合し、事実確認を行う。その際、適切な利益相反管理のための助言等を行うことも差し支えない。

当院では、研究者から提出される「(法書式1) 特定臨床研究審査申請書(新規)」内にある「利益関係の有無」および「(法書式2) 利益相反自己申告書(特定臨床研究用)」「(様式5号) 利益相反自己申告書(年次報告用)」を基に、倫理審査委員会事務局が事実確認を行う。利益相反状態を確認した場合は、「講演等依頼状(写)」情報や企業等から得られる情報等を基に事実確認を行い、様式D内「COI管理計画」内容に記載ある事項を確認した上で、必要がある場合は利益相反委員会より適切な利益相反管理のための助言等を行う。

4.4.2 利益相反状況確認報告書の作成

病院長は、事実確認の結果を研究責任医師に「利益相反状況確認報告書」(様式D 参照)として送付するとともに、その写しを研究分担医師等に送付する。「利益相反状況確認報告書」(様式D 参照)の作成にあたっては、個人的利益の具体的な収入額等の機微情報は含めないよう留意する。

4.4.3 文書保存義務

病院長は、研究責任医師が「利益相反状況確認報告書」(様式D 参照)を臨床研究が終了した日から5年間保存(規則第53条第2項)するに当たり、必要な協力をしなければならない。なお、文書は電子データで作成されるため、電子データでの保管を原則とする。

5. 守秘義務

本件管理体制に関係する者は、本件で得た研究対象者の秘密、身元に関する情報その他の個人情報を漏らしてはならない。